



滄水会賞メダル

滄水会ニュース

職業能力開発総合大学校同窓会誌

第15号 平成13年9月1日発行

特集

起業家・企業家・ものづくりに学ぶ その2

企画趣旨

この1年、日本の経済は一層厳しさを増し、将来にビジョンを描けない不安感が、一層深くなっています。そんな中で、前号に引き続き、ものづくりに関わる達人に、投稿をお願いしました。達人の生き方・考え方の中に、現代社会の抱える問題を解決する糸口が有るのではないかと、将来の社会・経済を良くするメカニズムが潜んでいるのではないかと、そんな思いが込められています。本特集は、会員皆様方の今後の活動の刺激となり、何かを始めようとする起点となればと考え企画いたしました。



起業家に学ぶ

日本電産株式会社 代表取締役社長

永守 重信 氏 (会員)



企業家に学ぶ(1)

株式会社 東芝 プロセス技術研究センター長

片岡 好則 氏 (会員)



企業家に学ぶ(2)

株式会社 資生堂

宣伝部第1パッケージ制作グループ

佐賀関 等 氏 (会員)



ものづくりの達人に学ぶ

大右工門

長崎県無形文化財白磁手ロクロ保持者

田沢 大助 氏

雇用を創出するTLO

富崎・円城寺特許事務所 所長

富崎 元成 氏 (会員)

職業能力開発総合大学校校長就任挨拶

早川先生の後を引き継いで、昨年10月から職業能力開発総合大学校の校長に就任いたしました。さて現在、日本は政治・経済を中心に大きな変化が求められています。国際的に信用がないのは、日本の工業製品が品質保証されているのとは全く対照的です。今後このような点を十分考えて、特色のある大学校作りを実行していかないと、生き残れないという危機感を強く持っています。本年、本大学校は40周年にあたりますが、50周年に向け明確なビジョンを持ち、本大学校の将来の発展に全力を尽くすことを、滄水会の皆様に誓いますので、皆様も何卒よろしくご支援をお願い申し上げます。



戸田 不二緒

滄水会賞メダル：このメダルは優秀な卒業生に贈られる滄水会賞の副賞で、植物の芽吹く力と泉から噴出す水の勢いを表現したものです。中村元隆(制作者)

起業家に学ぶ

製造業の復権

日本電産株式会社
代表取締役社長 永守 重信



(第3期電気科卒)

日本国内はもちろんのこと、世界10ヶ国以上に生産基地を持って40000人以上の従業員が働く企業に成長してきた日本電産グループは創業以来一貫して「物づくり」にこだわりつづけている。これは前号でも記したごとく職業能力開発総合大学校(略称:能開総合大)の前身である我が母校・職業訓練大学校(略称:訓大)の初代校長である成瀬政男先生の教えの影響が大きい。成瀬先生は口を開く度に「科学・技術・技能の一体化」の訓話を繰り返して、国家の基盤は製造業によって成り立ち、物づくりこそ「科学・技術・技能の一体化の産物」と説かれた。国家の基幹たる物づくりに生涯を賭けてみようと訓大を卒業して6年後の昭和48年7月に28歳で日本電産を創業し、28年の歳月を経てきた。今や精密小型モータ中心にシステム機器や製造装置にまでビジネス分野を拡大し、世界の物づくり産業に大きく貢献していると自負している。

さて、創業以来幾多の困難に見舞われてきたが、その中でも思い出深い話がある。1980年代の後半、日本はバブル経済に見舞われた。土地が暴騰し、株が史上空前の値上りをした時期である。その当時、物づくりは軽視されつづけていた。技術系の学生はこぞって給料のよい銀行や証券会社に入社、まだその当時、中堅企業の域を脱していなかった我社も人の採用に困難をきたしたものである。交通費と宿泊費、そしておいしい食事を目当てに東



新本社・総合技術開発センター
(2003年完成予定)

京の大学の学生が就職する気もない京都の企業回りをしてお金を稼ぐということも起きた。優秀な学生は物づくり企業を敬遠し、銀行や証券等のサービス業へ流れ出し、TVのコマーシャルまでハードワークをなじりつづけた。それでも物づくりにこだわり、物づくり企業の基本姿勢を会社説明会で説明しつづけた我社には、ほとんど良い学生は入社してこなかった。

世界にない製品を開発し、それを生産して世界のマーケットに供給しつづけることは、そんなに生易しい仕事ではない。我々メーカーは10年単位で体制づくりをしてい

Voice 滄水会のますますの発展を祈念します



トック・エンジニアリング株式会社

世紀をリードする

金属探知器(アルミ包装内検知)

マグネット装置 リサイクル機器

代表取締役社長 隅井 努 第3期鍛造科卒

〒190-1222 東京都西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎東松原2番地
TEL 042-556-1989 FAX 042-568-0560
<http://www.aa.allies.jp/~toktk/> E-メール toktk@aa.allies.or.jp

Voice 滄水会のますますの発展を祈念します

株式会社 アーバネット
株式会社 アーバネット設計連合
代表取締役 服部信治(第10期建築科卒)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-24-7
ルネ御苑プラザ1220
TEL 03-3351-5541 FAX 03-3351-5549
E-mail info@urbannet-design.co.jp
URL <http://www.urbannet-design.co.jp>



物件名: ステージファースト剛毅アジュールコート
事業主: 株式会社アーバネット



タイ日本電産株式会社 ロジャーナ工場

る。新しい土地を手当し、そこへ工場を建て、高価な機械装置を並べて、良い品質の製品をつくり上げていかなければならない。新入社員を採用して一人前の技術者、技能者になってくれるのも最低10年はかかる。10年単位で回転していく製造業に比べて、バブル期のサービス業はいつも簡単にお金を稼ぎ出した。「これはおかしい、何か間違っている」と叫んでみても、世の中の常識は変わりつづけた。だからこそ後日「バブル経済」と名づけられたのであろう。当時の一流新聞までもが10年後の1990年代後半には400万人程度の労働人口不足が起きるだろうと報じた。しかし私は、絶対にそんなことにはなり得ぬと地味な物づくり活動を続けた。自分の会社のポリシーに合わない学生は一切採用せず、応募してきた学生には世界的製品開発を目指す当社では入社した翌日から残業・休日出勤があることを告げたところ、9割の学生は入社を断ってきたものである。こうした採用困難な時でも物づくり企業に興味を示すほんのわずかな人材を求めつつ、じりじりと成長をしてきた。

先にも述べた人真似をしない世界初の製品を開発することは、そんなに生易しいことではない。物づくりは割に合わぬと言う人がおられるが、決してそうではないと私は思っている。バブル経済がはじけて10年余、日本経済は

どうなったかと思えば、私がくどくど説明することもない。最近、日本の製造業の中でも極めて強い企業が出現してきた。電子部品産業を中心に世界マーケットの中で高いシェア(市場占有率)を有し、アメリカの優良企業にも負けない高収益を実現している。いわゆる過去の日本企業特有の薄利多売から「厚利多売企業」の出現である。これぞ物づくり企業の復活の証であり、21世紀の製造業が目指すシグナルでもある。世界に通用する「科学」と「技術」と「技能」でもって競争力ある製品を開発し、市場へ価値ある値段で売っていく。そして銀行や証券といったサービス業よりはるかに高い収益を上げて成長発展していく製造業の姿が、あらためて若者の技術系への進学やメーカーへの就職を促し、日本の弱体化しかけた物づくりを復活させていくのではとの期待が膨らむ。

昨年から今年にかけて、違った意味で有名化した「ものづくり大学」の発足主旨も、時期を得て若者に物づくりの素晴らしさや喜びを教えてくれるものになることを期待したい。そして、物づくりに携わる人たちがサービス業に従事する人たち以上の恩恵を受けられる社会の実現こそが重要であるように思える。国家の基盤である製造業の衰退がこれ以上進行すれば日本の将来は大変暗いものになると心配しているが、先にも述べたように、活力ある企業の出現によって新たな製造業復活劇が見られるのではないかと夢は膨らむ。当然のこととして、その代表的企業の一つとして我々日本電産グループ会社は大いなる成長発展を期していきたいと決意している。

企画のねらい


日本電産株式会社の創業者 永守 重信氏に、企業成長のメカニズムを「ものづくり」をキーワードに寄稿いただいた。第2次産業から第3次産業へのパラダイムシフトの中で製造業の社会的重要性を理解いただき、製造業を起業する若者の「道標」となることを期待しています。

Voice 卒業生の一層のご活躍を祈ります



代表取締役社長 高島規嘉 第5期木材加工科卒
〒410-0871 静岡県沼津市西間門15-1
TEL 0559-24-2000(代) FAX 0559-24-2062

Voice 滄水会の益々の発展を祈念します

すえ永く美しいUV塗装 

株式会社三協産業

代表取締役社長 河野益己 第10期木材加工科卒

本社 広島県福山市柳津町2406-2 TEL 0849-33-3371
第1工場 広島県福山市南松永町4-11-4 TEL 0849-33-4902
第2工場 広島県福山市南松永町3-4-30 TEL 0849-33-0203

企業家に学ぶ

(1)

変化をチャンスに

株式会社 東芝
プロセス技術研究センター長
片岡 好則



(第8期塗装科卒)

東芝に入社して29年になります。最初に、生産技術研究（現在の生産技術センター）に配属になって以来、常にここで、物づくりに関係した仕事をしてきました。会社生活を振り返って、私にとって最も大きな変化は、入社14年目に技術分野がまったく変わってしまった事です。最初の14年は、大学で学んだことに比較的近い塗装などの表面処理で、後半15年はハイテクの塊と言われる、半導体や液晶デバイスのプロセス技術です。

私が入社した昭和47年は、経済全体が著しい成長を遂げていた頃で、全ての分野で事業規模が大きくなって行きました。塗装や接着関係では公害問題から従来の溶剤型塗料の無公害化や省エネ型の紫外線硬化材料のプロセス開発など、あまり考えなくてもテーマはいくらでもありました。東芝には、家電、重電、産エレなど多くの工場があり、ほとんどが自前で表面処理をやっていたので、ここからたくさんの技術開発を委託されました。また、生産技術研究所にいて幸運だったのは、常に新しい技術を取り入れ、技術レベルを向上するという風土が非常に強かったことです。例えば、紫外線硬化型材料の合成や評価のため、東大の生産技術研究所で勉強する機



(株)東芝 生産技術センター

会も与えてくれました。当然、実践を最も重視し、年に1回は塗装ラインの立ち上げを行っていました。考えて見ますと、この頃自分の技術的基礎を作ったのではないかと思っています。

全ては順調だったのですが、1980年代中頃から、物づくりの環境は大きく変化し、表面処理技術、加工技術、接合技術などはどんどん外に出て行くようになりました。一方で、DRAMに代表される半導体の事業規模はますます大きくなり、液晶デバイスが新規事業として脚光を浴びてきました。東芝内の事業構造が大きく変わり、物づくりのあり方も変わってきた

Voice 滄水会、能開総合大の発展を祈ります

次は、あなたが成功例になる。

with Unisys.

www.unisys.co.jp

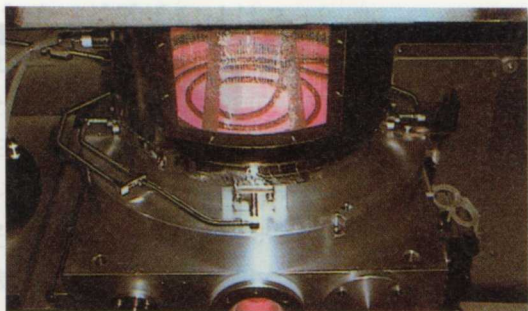
日本ユニシス株式会社

Voice 卒業生の一層のご健闘を祈ります

大東産商株式会社

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2丁目17番地
山梅ビル6階

TEL 03-3257-0661 FAX 03-3257-0640



高密度プラズマ実験装置

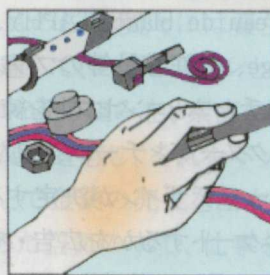
のです。残念ながら、私自身が変化に果敢に挑戦したという訳ではないのですが、結果的には表面処理の技術者から半導体や液晶デバイスのプロセス技術者に自分を変える事ができました。

塵一つないクリーンルームの中で、500工程を超えるような、複雑なプロセスで微細パターンをつくる半導体と塗装やメッキなどの表面処理は一見ずい分違う技術のように感じます。実際にある面では、かなり違うのですが、半導体のドライエッチング、成膜、洗浄などのプロセスを表面反応として考えると両者はとても近くなります。どちらもプロセスを支配するメカニズムを、表面反応の立場から明確にすることが重要だということです。

また、大学時代に学んだ塗装の不良解析の手法を、先端プロセス開発に有効に応用しました。例えば、塗装のゆず肌という現象を説明するのに、原理を単純化し、モデル図を絵に描く事で、見えない現象をイメージすることができるようになります。半導体のデバイス物理は非常に高度で、学問的にも進んでいる分野ですが、500工程もあるプロセス技術は十分に解明されてはいません。ここで、起こっている事を詳細に観察し、分析・解析技術を駆使して塗装の場合と同じように、現象をモデル化します。複雑な現象をできる限りイメージできるよう努めました。当然、

最初は技術レベルも十分でなく、専門用語も分からないほどで、社内でも相手にされませんでした。しかし、挫けず、絶えず手法を改良し、技術の質を向上し続けてきました。最近、中核のプロセスでもタイムリーに成果を出せるようになりました。

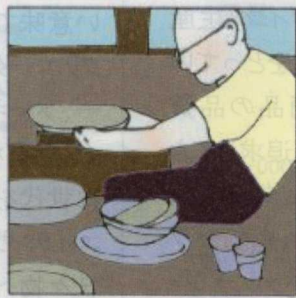
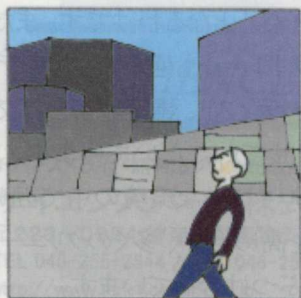
また、モデル化の部分ではできる限り論文にまとめ、体系づけるよう努めてきました。これが実を結び、ここ数年で、私の部門だけでも5名が学位を取得しています。ほとんど工場にいたことが多いのですが、内容はしっかりしていると思っています。私も過去10年の仕事をまとめ、昨年、博士(工学)を取得しました。つくづく感じる事ですが、チャンスは誰にでも公平に訪れるものです。大切なことは、今がチャンスだと分かり、新しい形を作り、確実にものにする事ではないでしょうか。これは、自分に言い聞かせているのですが、変化の激しい時代こそチャンスと捉え、変化する事を恐れずに頑張っていきたいと思います。



企画のねらい

企業の研究部門で、企業環境や技術トレンドの大きな変化の中で、自分の持つ専門技術を新しい産業に適合させ、自らの知恵と努力で乗り越えられてきた片岡 好則氏には、その向こう側に見えたものを寄稿いただきました。

富崎・田城寺持許事務所



企業家に学ぶ

(2)

デザインのおもしろさ

株式会社 資生堂

宣伝部第1パッケージ制作グループ

佐賀関 等



(第32期造形工学科卒)

インハウスデザイナーとして

大学を卒業して6回目の夏を迎えます。在学時を振り返ると、幅広い視野でデザインを捉え、愉しく学んでいたことが思い出されます。ファッションとインダストリアル両要素を持つ化粧品のパッケージに興味を抱き出したのもその頃でした。切望して入社した資生堂では、パッケージデザインを主としたクリエイションを手掛けています。

これまで、IPSA、eau de blanc、TAPHY、Proudia、UV-WHITE、emerge、化粧惑星等のブランドを担当しました。商品開発チームとコンセプトを練り上げ、その後、アートディレクター等とチームを組んで形にいきます。パッケージデザインが決定するとその魅力をいかにコミュニケーションするかを広告・スペースチームと検討します。いずれの仕事も、チャンネル・ターゲット・コンセプト等が異なるのでデザインプロセスは異なります。

それぞれ専門家のノウハウから分析し、ビジネスプランを見据えたベストな表現が求められるのです。市場の反応も様々で、予想通りの結果が得られると大変嬉しいものです。デザインしたものを通じて市場をコントロールする。そこにデザイナーという仕事の面白さを感じています。

資生堂のクリエイション

資生堂では、基礎研究から開発・デザイン・生産管理までを基本的に社内で行うシステムをとっています。それは、医薬品を始まりとする商品の品質『知』へのこだわりと、いつの時代も『美』を追求してきた商品や宣伝制作物にかたちづくられた文化遺伝子を大切にしてきたからです。特に、クリエイティブワークに関しては独特のスタイルを持ち、パッケージ・グラフィック・スペースの部門に属する100人を超え



化粧品のパッケージデザイン例

るクリエイター間で緊密な連動を図りながら制作が行われています。私の所属するパッケージクリエイティブ部に関しては、より秀でたデザインを得るために、社内スタッフ間でコンペティションを行います。先輩・後輩等の枠を超え、作品だけで優劣が下されます。いい意味で同僚がライバルとなるわけです。また、海外クリエイターとのコラボレートも盛んで、旬のデザイナー、メーキャップアーティスト、建築家等との交流も多く、貴重な経験をさせていただいています。このように世代を超えたグローバルな環境の中で互いのクリエイティブマインドを高め合い、多くのクリエイターが日々物への想いをぶつけ合っています。

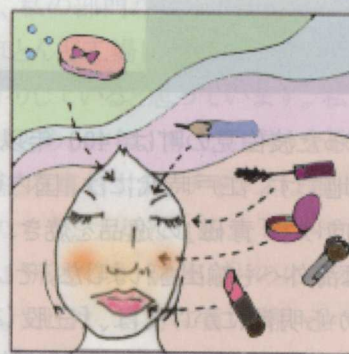
パッケージデザインとは？

化粧品は容器なしには商品として存在しえない物であり、その容器はユーザーが商品を使い終えるまで日常の中に置かれるものです。よって、そのパッケージは中身のアイデンティティーを表現するとともに、それを選んで使うユーザーのアイデンティティーをも表現しなくてはならない。また、表現されたスタイルの繰り返しが企業イメージを形づくり、一方で各時代の社会に影響を与え、歴史の積み重ねを経て文化として認知されているように思えます。パッケージデザインは『生活の記録であり、時代を映す鏡である。』と言っても過言ではありません。デパートやスーパーで商品を観察すると時代の兆候がわかり、時間の経つのを忘れてしまいます。容器の構造・材質・デザインコンセプト、全ての面で常に新しさを追求することにより、結果として新しいパッケージ・新しい文化を創造できる。日常生活の1要素ではありますが、大変興味深いものです。

これからのデザインワーク

デザインという分野に限ってこれからのことを考えてみますと、すごく未解決なイメージがあるように思います。それは単にデザインの能力や表現が行き詰まっているというよりも、時代との組み方が確立されていない空気感みたいなものがあるからかも知れません。これからは、ユニバーサルデザインやエコロジーデザインなどはもちろんですが、もっと感覚的なところが重要視される時代になると思います。「人の心を刺激し活性化させ、毎日の生活を楽しむ。」デザ

インの持つ価値、比重がますます大きくなり、人々に貢献していくと思います。『デザインの重要性をメッセージする』ことも今後の私の仕事だと考えます。「努力なくして結実なし」「一芸は万芸に通ず」これが私の信条であります。



企画のねらい

卒業6年目の佐賀関氏には資生堂のパッケージデザインを通じて、ビジネスマンとして活躍している様子や仕事の取り組みを、素直に寄稿いただきました。時代の変化を感じ、それをパッケージという形で表現することで企業の売上を左右する。そんなピンと張りつめた空気の中で、仕事をする佐賀関氏の息づかいを感じていただけたらと考えています。

Voice

訓大→能開大→能開総合大を胸に **未来へ！**

代表取締役社長 **小路 幸市郎** (電気科 第17回卒)

衛 建平 (電気科 第21回卒)

野崎 隆 (運輸装置科 第26回卒 / 研究機械 第2回卒)

三浦 秀朗 (情報工学科 第31回卒)



デバイスドライバ開発のプロフェッショナル

サイエンスパーク株式会社

〒228-0024 神奈川県座間市入谷1-1538-11

TEL 046-255-2544 / FAX 046-255-0319

http://www.sciencepark.co.jp/

Voice

滄水会、能開総合大の益々の発展を祈ります

富崎・円城寺特許事務所

所長 **富崎元成** 弁理士

第7期機械科卒

〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目13番4号

T・Sビル2階

TEL 03-3504-1305(代) FAX 03-3504-1306

ものづくりの 達人に学ぶ

ものづくりに息づく技と心

長崎県無形文化財
白磁手ロクロ保持者
田沢 大助



私が生まれ育った波佐見の町は、400年以上も続くやきものの産地です。江戸時代には、国内の諸大名や富裕層に向けて「青磁」の逸品を焼き、また青磁の大皿などは海外へも輸出されました。そして、江戸時代の末頃から明治にかけては、「三股(みつのまた)徳利」と呼ばれる磁器の徳利を大量に焼いたことでも知られています。しかし波佐見焼の伝統は、なんとといっても「くらわんか茶碗(日用食器)」にあります。江戸時代から今日までの長い間、茶碗や湯呑みなどの日用食器が全国の家庭で愛用されてきたことを思うと、本当に深い感動を覚えます。一口に400年といっても、それは並大抵のことではなく、陶工の汗や涙や努力の集積があるからです。

さて、そういう歴史のある産地の中で、私の家も曾祖父の頃からやきものづくりに携わってきました。私の父は田沢長円といって絵付けの職人でしたが、「名人」と呼ばれていて、特に馬や鹿などの動物の絵を得意としていました。ある時、県知事の前で絵を描く機会があり、その席で知事から「馬の跳ねるところの絵を描いてくれ。」と言われて即座に描いてみせたら、知事がびっくりされたという話を何度も聞かされ

ました。それを聞いて私も嬉しかったことを思い出します。

私は、昭和9年に「上波佐見尋常高等小学校(後の青年学校)」に入学しました。工業科の中にはロクロと絵付の2教室がありましたが、子供の頃から手先が器用で、また当時はロクロ師のほうが工賃が高いこともあり、父の勧めでロクロ教室に入りました。当時は、どうせ兵隊に行くこともあって、他の職業に就くことなど全く考えも及びませんでした。学校では週に3回(1回3時間)ロクロを習いましたが、先生は富永六次という人で、基本を徹底的にたたき込まれました。厳しい反面優しい面もあり、教え方が非常に上手で、今日あるのも先生との出会いがあったからこそ、今でも足を向けては寝られない感謝の気持ちでいます。

青年学校を卒業して、すぐに「福幸製陶所」に入りました。最初の1年間は「荒しこ」といって、ロクロの土ふみや土もみ、登り窯の手伝いなど雑役に従事しましたが、昼間の仕事が終わったあと、夜遅くまで一人でロクロの稽古をやっていました。1年が過ぎた頃、社長から「ごはん茶碗を作ってみろ！」と言われて、作った茶碗がきれいに焼けたので社長が感心し、父



透かし彫り鉢の製作



馬上杯の製作

も大変喜んでくれました。また、それから程なくして、佐世保の玉屋百貨店から仙茶碗の注文があり、私が作りました。ある時、玉屋百貨店の食堂に行ったら、私の作った仙茶碗で飲んでいたお客さんが「これ飲みやすかね。」とほめて下さるの聞き、感動したことを昨日のように覚えています。それから今日までの50数年間、時代の荒波の中で紆余曲折もあり、大変な苦勞もりましたが、お客さんを始め、いろいろな方々から励ましがあつてここまでこられたと感謝しております。私は工芸作家ではありませんので、逸品の芸術作品のことはよくわかりません。職人というのは、お客さんのために適正な量と値段をふまえて、そして、自分の最高の技術で真心を込めて作るんじゃないかと思っています。私の誇りは、昭和46年に波佐見でロクロ教室の開校を実現させ、これまで

300人以上の後継者を育てたことです。現在、産地はおろか、日本の伝統産業全体の将来が危ぶまれています。これから彼等の出番が増え、活躍してくれることを夢見る昨今です。



企画のねらい

多くの製品・商品の盛衰の中で、伝統工芸品といわれるものは、いつの世の人々にも愛され続けてきました。「時代を乗り越えて愛されているのはなぜか」そんな素朴な疑問に現代の名工 田沢 大助氏に伝えていただきました。

雇用を創出する TLO

大学で発生した科学・技術を経済社会に移転して、その対価を大学に還元する、ことを目的とした技術移転機関、TLO (Technology Licensing Organization) の議論が我が国でも活発化した。日本政府も新規な雇用創出をこのTLOに期待する政策を発表した。

米国は、日本の産業から自動車、家電、鉄鋼等で壊滅的な打撃を受けたとき、ヤングレポートを出して日本の産業に対抗するための数々の政策を打ち出した。これらの政策の一環としてTLOが打ち出され、この成果が今日の米国産業の復活を担った一因、即ちバイオ技術、IT革命であるとも言われている。

1998年の米国の統計によると、米国の179大学からの技術移転により、335億ドルの経済効果と28万人の雇用を創出し、4808件の特許を出願し、364の新会社をスタートさせ、ロイヤリティ収入7億2500万ドルを獲得した、と報告されている。

一方、日本の大学と米国の大学を比較すると、日本の劣悪な研究・開発環境がよく言われているが、実際に比較すると研究者総数(約8万人)、研究費(約6千億円)では数字上大差はない。しかしながら、この研究・開発の成果はあまりにも差があり、日本は約100件程度の特許出願、ロイヤリティ収入3千万である。この数字のみで日本の大学の研究・開発の

宮崎・円城寺特許事務所 所長 富崎 元成

効率は論じられないが、日米の大学間にはあまりにも大きな落差がある。

職業能力開発に関する職業能力開発総合大学校等の諸機関は、技術教育と研究・開発の側面から見れば、一般の大学と産業界の中間に位置していると思



(第7期機械科卒)

う。産業の動向と方向の異なる、又は遅れた技術・技能を教育・訓練しても、米国の大学のような影響を与えることはできないし、評価もされない。

しかしながら、この中間の位置を活かせれば、米国の大学のように我が国の産業界に人的にも技術的に影響を与え、新規産業、新規雇用の創出も可能であると思う。

企画のねらい

起業をテーマにしようと思う時、アメリカに目を向けずにいられません。起業のメカニズムは、エンジェル・MBA・産学協同のプロジェクト等が起業家精神を持つ人材との融合により創出しているものです。その中で、近年話題の多い、TLO に焦点を合わせ富崎氏に持論を投稿しました。

滄水会(本部)からのお知らせ

滄水会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

母校は中央職業訓練所から始まり訓大、能開大、職業能力開発総合大学校と校名改称・組織改正を経て、本年設立40周年を迎えました。これを記念して、11月1日(木)から4日(日)にかけ、西澤潤一氏(岩手県立大学学長・元東北大学総長)による特別講演を始め職業能力開発研究発表講演会、ロボットデモンストレーション、学園祭などが40周年記念事業として開催され、40年史も刊行される予定です。

40周年にあたり、母校より記念事業への協力依頼があり、初代校長成瀬政男氏の胸像台を寄付させていただくこととなりました。また、研究発表会において優秀なポスター発表には副賞を贈ることにしております。

●滄水会新役員の紹介

本年4月、日向副会長が能開総合大から「ものづくり大学」へ出向されたこと、本年度に名簿発行を予定していること等に伴い、2電11期菅野恒雄氏(能開総合大情報工学科助教授)に理事として就任依頼を行い、理事会で了承されました。

本年は3年に1度の滄水会名簿を発行する年です。滄水会名簿は、会員の皆様に購入していただく収入、広告掲載料、賛助金等により作成しております。名簿の正確性を期すためハガキによる3回の調査と電話による確認を経て、本年末に刊行する予定です。何卒名簿の住所確認、賛助金、広告等への絶大なるご協力をよろしくお願い申し上げます。

●滄水会本部活動報告

平成12年度卒業式 平成13年3月23日(金)

<滄水会賞の授与>

卒業式に引き続き、第6回滄水会賞授与式を挙行了しました。滄水会賞は昨年度まで、記念メダルと賞状を別に授与していましたが、本年度より記念メダルと賞状を一体化したものに変更しました。富崎副会長から、女子学生2名を含む8名の卒業生に記念メダルをはめ込んだ賞状を贈るとともに、長期課程卒業生および研究課程修了生全員に力強い祝辞が述べられました。

また、続いて開催された卒業祝賀パーティーでは、滄水会より寄贈した二斗樽を囲んで鏡割りが盛大に行われ

ました。

第6回滄水会賞受賞者

- 青地 学 (産業機械工学科)
- 岩崎 弘美 (生産機械工学科)
- 作山 昌史 (電気工学科)
- 大沢 朋芳 (電子工学科)
- 堀内 美麿 (情報工学科)
- 中須 一夫 (建築工学科)
- 影山 知美 (造形工学科)
- 島村 博 (福祉工学科)



●名簿発行を行う業者

滄水会名簿の出版計画については、(株)廣濟堂と契約を行い、名簿の調査や発行・送付を全面的に委託いたしました。

●住所変更等のお願い

滄水会ニュースの送付および名簿作成時の正確性を維持するため、会員の皆様の住所変更等がございましたら滄水会事務局までご連絡をお願いいたします。

【滄水会事務局】

〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台 4-1-1

職業能力開発総合大学校内 滄水会

FAX 042-763-9267

E-mail:sousui@uitec.ac.jp

躍進続ける Nidec グループ!!



日本電産株式会社

代表取締役社長 永守 重信 (第3期電気科卒業)

〒615-0854 京都市右京区西京極堤外町10 <http://www.nidec.co.jp/>

編集後記

「起業家・企業家・ものづくりに学ぶ」の特集を組んで2回目になります。日々多忙な会員の皆様には、日本経済の閉塞感を抜け出すアイデアを、少し仕事の手を休めて考えていただければと思います。

今回寄稿いただいた皆様の力(パワー)が会員の勇気となり、日本経済を好転させる第一歩を皆様方が歩み出すことを期待いたします。

滄水会ニュース(職業能力開発総合大学校同窓会誌)編集委員：前川幸秀・鈴木孝廣・赤松 明 イラスト：赤松 茜

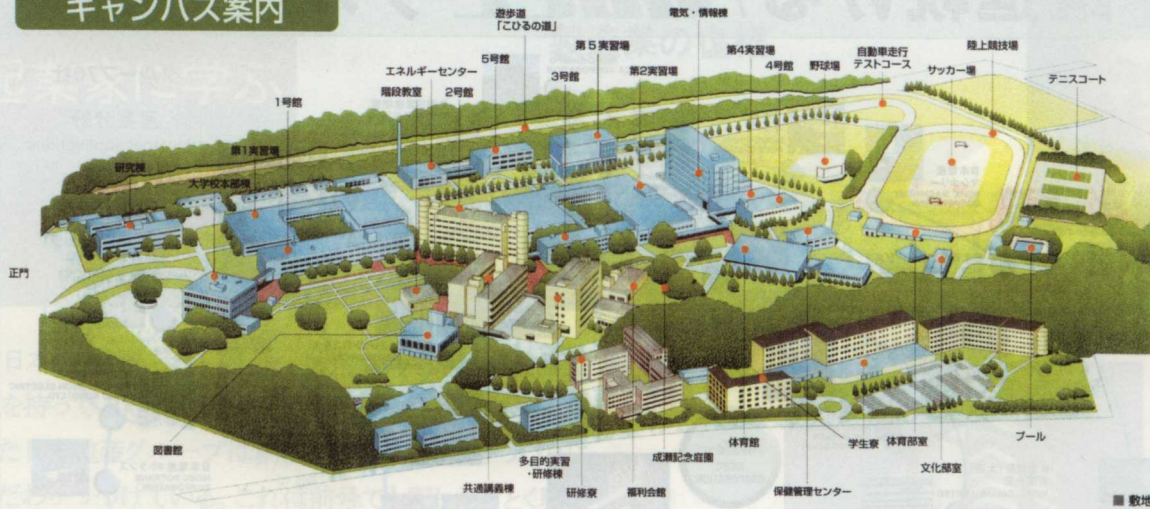
滄水会

発効日：平成13年9月1日 発行者：滄水会会長 永守 重信

〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台 4-1-1

FAX 042-763-9267 E-mail: sousui@uitech.ac.jp

キャンパス案内



職業能力開発総合大学校 設立40周年記念事業

記念講演 11月1日(木)
 テーマ「人間の能力は何処から来るか」
 講師 西澤 潤一氏 岩手県立大学長
 元東北大学総長
 会場の都合により、入場を制限させていただくことが
 ありますのであらかじめご了承ください。

研究発表 11月1日(木)～2日(金)
 テーマ「21世紀を創造する職業能力開発」

展示 11月1日(木)～2日(金)
 ロボットの展示、デモンストレーション他

能開祭 11月3日(土)～4日(日)
 各工学科イベント、国際交流のひろば他

お問い合わせ 総務課企画係
 TEL 042-763-9086
 FAX 042-763-9011
<http://www.uitec.ehdo.go.jp/>
 E-mail:kanda@uitec.ac.jp



電車
 JR横浜線・JR相模線・京王相模原線 橋本駅南口下車
 東海道新幹線「新横浜駅」よりJR横浜線利用で橋本駅下車

バス
 神奈中バス
 西橋本經由上大島行「能開大前」下車(約10分)
 二本松經由上大島行「能開大前」下車(約10分)
 ※臨時バスの運行も予定しています。



〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台 4-1-1

学生課; TEL 042-763-9023/042-763-9024

FAX 042-763-9214

受験生サポートサービス; TEL042-763-9249

ホームページ; <http://www.uitec.ehdo.go.jp/>